

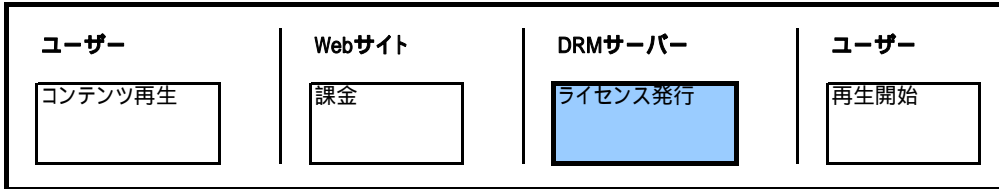
3. 事後ライセンス発行方式を用いた利用イメージ

コンテンツ再生の際に課金とライセンスの発行を行います。

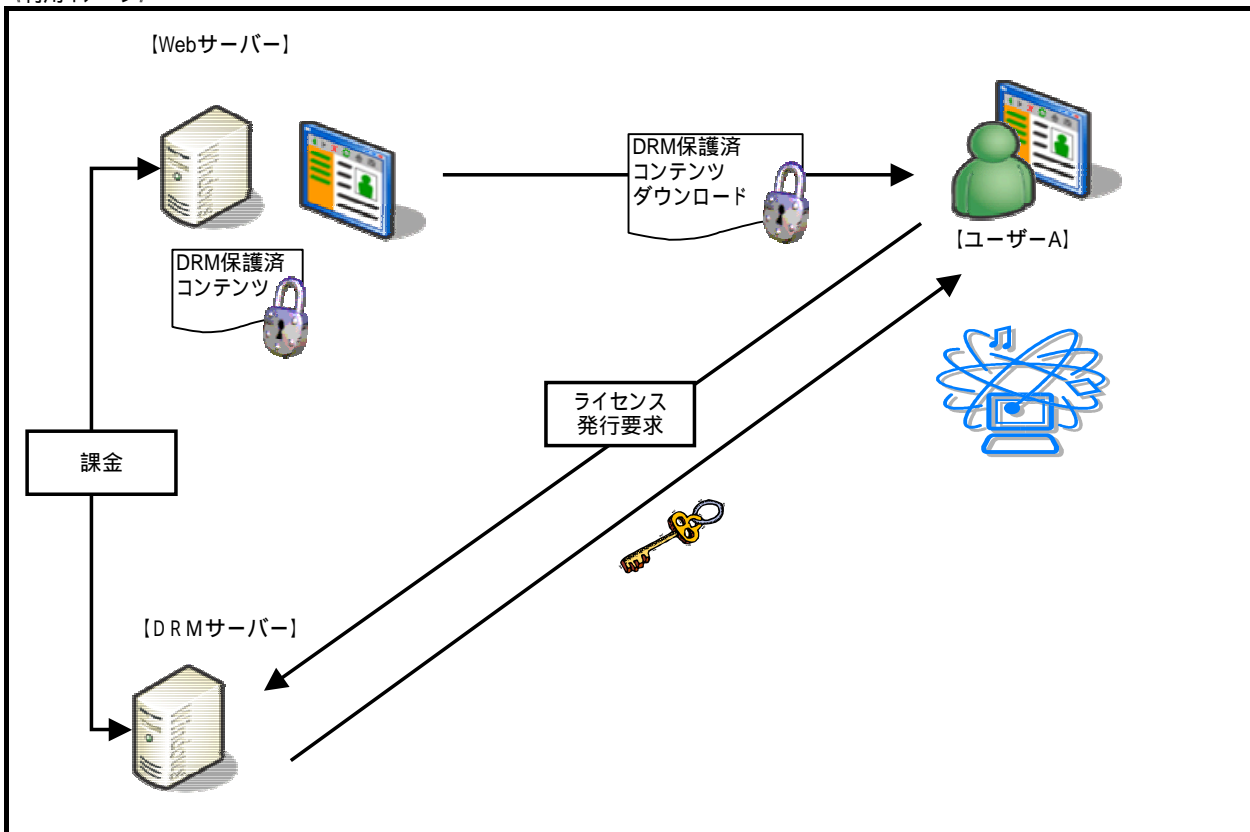
メリット : 初回再生時にDRMサーバーへの認証が必須の為、コピー配布された場合でもコピー先で必ず課金が発生します。

デメリット : 複数コンテンツをユーザーが所有する場合、コンテンツの再生ごとに課金とライセンス取得を行う必要がある為、ユーザーの操作負荷が大きくなります。(10コンテンツ保有の場合、10回のライセンス発行が必要となります)

(処理フロー)



(利用イメージ)



【フロー詳細】

Webサイトは、DRM保護されたコンテンツを公開します。
 ユーザーはWebサイトからDRM保護済コンテンツをダウンロードします。
 コンテンツ再生の際、ライセンス発行要求をDRMサーバーに対してシステム自動で行います。
 DRMサーバーからの課金処理要求を受けて、Webサイトで課金処理を行い、結果をDRMサーバーに返却します。
 Webサイトからの課金処理結果を受けて、コンテンツ毎の制限情報とユーザー情報を基に、ライセンスを生成し発行します。
 ライセンスが取得された後、コンテンツの再生が行われます。